令和８年度全国学力・学習状況調査

中学校英語　調査結果の見方

今年度の全国学力・学習状況調査「中学校英語」は、１人１台端末を使用して実施されました。他の教科と調査結果の示し方が違うので説明します。この調査結果を見ながら、さらに力をつけていくための手がかりを見つけていきましょう。

令和８年度全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果

学校名	答案番号							組	氏　名
C150290045070中学校	9	0	0	0	1	9	8	1	

英語

①

４技能　IRTバンド

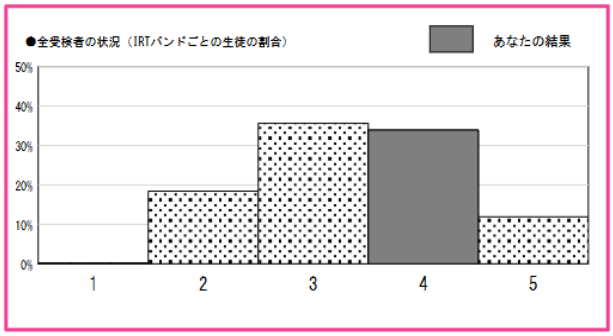
4

全受検者の平均的な理解度

3

※IRTバンドは、1～5の5段階で5が最も高い。

●出題内容
英語では、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと［やり取り］」、「話すこと［発表］」、「書くこと」によるコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けているかどうかをみる問題を出題しています。



②

問題番号 ※1	問題の内容	結果 ※2	全国の正答率（%）	学習指導要領の領域※3					評価の観点			問題形式			問題の難易度 ※4
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択	短答・口述	記述・口述	
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	○	24.3	★					★			★			3
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する		22.4	★						★		★			3
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	○	30.4	★						★		★			3
4	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する		45.5	★						★		★			3
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	○	52.0	★						★		★			3
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	○	54.6		★				★			★			3
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する		80.1		★					★		★			3
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	○	77.8		★					★		★			3

③

④

今回の中学校英語は１人１台端末を使用して実施したので、人によってそれぞれ違う問題が出題されました。全国のみなさんが共通して取り組んだ問題もあれば、調査を受ける人ごとに違う問題も出題されています。

調査結果　Ｑ ＆ Ａ

この調査結果から、力をつけるためにどんな手がかりが見つけられますか？

左上の【IRT バンド】からは、全受検者の平均的な理解度とあなたの結果を比べることができます。下の表からは、自分が解いた問題の正誤状況（正答か誤答か無解答かどうか）が分かります。表中の【学習指導要領の領域】からは、その問題が４技能５領域のどれに当たるかが分かります（(1)聞くこと、(2)読むこと、(3)話すこと［やり取り］、(4)話すこと［発表］、(5)書くことのどの問題かが分かります。）

詳しい見方については、右の二次元コードの先で示しています。調査結果を生かしてさらに力をつけられるといいですね。

① 「IRT」や「IRT バンド」って何ですか？

「IRT」とは「項目反応理論」といって、みなさんが解いた問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ人の学力を測定する方法です。

「IRT バンド」とは、今回の調査における結果から、理解度を５段階で示したもので、５が最も高い理解度を示しています。今回の調査の全受検者の平均的な理解度は３になります。

② どんな問題だったかもう一度見ることはできますか？

調査結果に載っている問題は国立教育政策研究所のホームページに掲載されています。

https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html

また、全て MEXCBT で取り組むことができます。その問題の自分の正誤状況や問題の難易度などを確認しながら、振り返りなどに活用してみてください。（※MEXCBT への配信の設定は学校が行います。）

③ 「結果」に何も書いてない欄があるのはなぜですか？

当日受けた問題は人によって違います。あなたが当日取り組んでいない問題は空欄になっています。

④ 「問題の難易度」はどのように決められているのですか？

問題の難易度は、調査実施後にみなさんの問題の正誤状況を踏まえてつけられた数字です。例えば、「問題の難易度」が「３」の問題は、「IRT バンド」が「３」の人ならおおむね正答できます。ただし、「IRT バンド」が「３」の人でも難易度が「４」や「５」の問題に正答できる場合もありますし、難易度が「２」の問題でも間違えてしまうこともあります。自分の解いていない問題の難易度を確認し、今の自分の力を試す際などに活用してみてください。